

令和元年度 出雲崎中学校グランドデザイン

生徒の実態

- ・素直で明るく素朴である。
- ・より向上しようとする意欲に欠ける面がみられる
- ・自学の習慣が身につけていない。
- ・郷土の自然や文化への関心が薄い。

地域や保護者の願い

- ・素直で、やさしく、活発な人間に育つことを望んでいる。
- ・古くからある歴史、文化を理解し、出雲崎町に誇りをもち、将来出雲崎町のために尽くす人間に成長して欲しいと考えている。
- ・個人として自立し、自ら判断し、行動できる人間になって欲しいと願っている。

教育目標
豊かな心（徳） たくましい実践（知）（体）

元年度の重点課題
・人間関係づくり（徳）
・学力の向上（知）

年度の重点目標 = 育てたい生徒の姿
たくましい実践（知） 意欲をもって、わかるまで、できるまで学ぶ生徒
豊かな心（徳） 目的をもって自己に挑戦し、自ら鍛える生徒
お互いを思いやる、心優しい生徒

年度の努力事項

出雲崎町教育計画

- 出雲崎町がめざす教育の姿
夢をもち、感性豊かで、たくましい心と体
- （知） 9年間を見通した系統だった指導計画の作成と遂行
 - （知） 発達段階を追った学習規律の確立
 - （知） 発達段階に応じた授業と結びついた家庭学習の確立
 - （徳） 豊かな感性を備えた自立した人間の育成
 - （体） 発達段階に即した基本的な生活リズムの確立
 - （特別支援） 一人一人の障害に応じた関係機関と連携した継続的な指導

| 重点目標 | 知：意欲をもってわかるまでできるまで学ぶ生徒 | 徳：お互いを思いやる心優しい生徒 | 体：目的をもって自己に挑戦し自ら鍛える生徒 |
|------|--|---|---|
| 努力事項 | 1 知識・技能の着実な習得と、活用場面の充実を通して、学びの実感を育む。 2 言語活動の充実を通して、考えを深められる生徒を育成する。 3 キャリア教育の充実を通して、学ぶ意義や目的を見出し、主体的に学ぼうとする意欲を育む。 | 1 相手の立場を考えて行動するコミュニケーション能力を育成する。 2 互いに興味をもち、関わり合う活動を通して自己肯定感、自己有用感を育む。 3 人権教育・同和教育の充実を通して、差別や偏見をしない・させない人間関係づくりを醸成する。 | 1 具体的な目標をもって、継続的に体力の向上を図ろうとする生徒を育成する。 2 自己管理に対する高い意識をもち、基本的な生活習慣（メディアコントロール・睡眠時間・食生活）を確立する生徒を育成する。 |

目標達成計画

| | 学力向上 | 自己肯定感・自己有用感 | 体力の向上 |
|------|--|---|--|
| 成果 | ・12月のまとめテストの結果が基準を上回る。 | ・多くの生徒が「自分にもよい点がある」「集団の役に立っている」と実感して学校生活を送る | ・新体力テストで、各学年男女で県平均を越える項目を1つ以上増やす。 |
| 教育活動 | ア チャイムと同時に学習活動に取り組む。 イ 繰り返し学習したり、より難しい課題に取り組んだりする。 ウ 毎日60分以上家庭学習に取り組む | ア 専門委員会や学級の係活動などで自分の役割を果たす。 イ 生徒会活動において、決められた仕事だけでなく、自分で気づいて仕事を行う。 | ・運動やスポーツに親しみ、意欲的に取り組む。 |
| 運営活動 | ア チャイムと同時に行う学習活動を毎時間準備する。 イ 習得や活用場面を明確にした授業を展開する。 ウ 終学活で家庭学習カードの予定を毎日点検する。 | ア 一人一人の役割を明確にし、望ましいモデルを示して指導する。 イ 生徒会活動において、何のための活動か、どんな役に立つ活動かを毎月生徒に指導する。 | ・新体力テストの結果を分析し、生徒一人一人の課題に基づいたトレーニング法を指導する。 （自主トレーニングカードを活用し、6ヶ月後の数値向上を目指したトレーニングを行わせる。） |
| 成果 | ・学ぶ意義や目的を明確にし、意欲的に学習に取り組む生徒の割合が増える。 | ・多くの生徒が安心して過ごせる学校、学級集団であると感じる。 | ・ハッピーライフウィーク（睡眠調査）で、守るべき健康増進項目を意識しながら生活できる生徒を増やす。 |
| 教育活動 | ア 理解や解決の過程を説明したり丁寧に書いたりする。 イ ワークに計画的に取り組む、期限を守って提出する。 ウ 進路や生き方に関する目標を設定し、体験活動に取り組む。 | ア 相手が言いたいことを考えながら、人の話を聞くことができる。 イ 悩みや困ったことがあったら、誰かに相談できる。 | ・自分で起床し、登校することができる。 |
| 運営活動 | ア 毎単元で学び合いや関わり合いが生まれる学習課題や学習形態等を工夫する。 イ 提出物の期限や取り組み方を継続して定期的に指導する。 ウ 総合的な学習の指導で、事後のまとめ方を見通して、事前の指導を行う。 | ア 望ましい傾聴のモデルを念頭において、授業や特別活動で傾聴の仕方を指導する。 イ 日々の生徒の様子や変化を捉えて、生徒に進んで声かけを行う。 | ・ハッピーライフウィーク（睡眠調査）を行い、個々の睡眠の調査、面談による生徒指導を行う。 |

評価サイクルによる評価の実施

学校評価（内部評価・外部評価・学校関係者評価）

評価結果の公表（保護者、地域）

次年度の課題・改善へ

特別支援教育

目標 一人一人の特別な教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行うことにより、将来的に自立した社会生活を送るための基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせる。

- 1年時
- ◎ 中学校生活のリズムを掴ませ、学校生活への適応を促す
 - ◎ 生徒の状況を正しく伝え、保護者との連携を強める



個別指導の充実

- 2・3年時
- ◎ 自己理解を促し、自分の適性に合わせて良さを伸ばし、自己肯定感を高める
 - ◎ 生徒の状況を正しく伝え、保護者との連携を強める
 - ◎ 進路に目を向けさせ、学習・生活の自立を促進する